

東京のへ

学力テスト

不正の背景に教委圧力

足立区議に教育長答弁



質問する、さとう純子区議
—4日、足立区議会委

足立区の学力テストをめぐり不正問題で四日、日本共産党の、さとう純子区議は、区議会決算特別委員会で質問し、競争

をとおって来た区教育委員会の責任を追及しました。斎藤幸枝教育長は、教育委員会の学校現場への圧力が不正につながった可能性を認めました。

昨年実施した同区の学力テストでは、一位となった小学校で、学校長と教職員がテスト中教室を回り誤答を指さすとか、前年の問題をコピーし繰り返し練習させるなどの不正行為が明らかになっています。この不正をうけて、区教委は一日、学校間の過度な競争をおお

るとして父母や教育関係者から批判の強かった、学校の順位をつけてテスト結果を公表することや、正答率の伸びを予算の査定基準にする方針を撤回することを決めています。

さとう議員は、過去のテスト問題や類似問題を授業や宿題で行うことを各学校に参考として示すなど、区教委が学力テストの成績を上げるための対策を推進してきたことをとりあげてた

た。足立区が独自の学力テスト、学校選択制、民間活力の導入、教育予算の差別化など、国の「教育改革」を先取りして学校現場に競争をもちこみ、議会では与党議員がそれに拍車をかけてきたことを指摘。「学力テストの結果にシフトした教育は『不正』というより、学校教育そのものを変質させ、学力テストの点数を上げるものとなっていた」として教育委員会としての責任を明らかにするよう求めました。

長は「教育委員会が学校そのプレッシャーがこの長、教育界に必要以上のプレッシャーをかけてきたというのとは否めない。可能性はある」と答弁しました。